

Weekly Report



人類に
奉仕する
ロータリー

2016～2017年度
国際ロータリーのテーマ
人類に奉仕するロータリー

2016～2017年度
名古屋瑞穂ロータリー会長のテーマ
さらなる前進

創会 立：1980年(昭和55年)1月10日
幹 長：八木沢幹夫
事 事：関谷 俊征
例 会 日：毎週木曜日PM12:30～
場：ビルト名古屋

事務局：460-0008
名古屋市中区栄1丁目3-3 AMMNATビル7F
TEL：052-211-3803
FAX：052-211-2623
MAIL：2760_nagoya@mizuho-rc.jp
URL：http://www.mizuho-rc.jp/

故 江口金満さんを偲ぶ

追悼文

2016～2017年度 会長 八木沢幹夫

江口金満さんが、平成28年(2016年)10月19日に亡くなりました。江口金満さんは、昭和55年(1980年)に名古屋瑞穂RCに入会され、36年間当クラブに在籍されました。1987年～1988年度に会長をされました。私が入会した平成15年の例会には飄々と出席され、自分自身の祝いがあると会員に祝いの品を配られていました。平成28年春頃までは、杖を突きながら、あるいは家族の方が付き添ってみえられる事もありました。平成28年夏頃、名古屋千種RCの会員である旧友(弁護士)経由で当クラブ平野好道さんより入院されていると連絡が入り、2回ほど入院されている名古屋通信病院に見舞いに伺ったものの意識はなく、奥様に容体を確認して帰宅しました。容体は全体的な身体機能不全でいわゆる老衰のようでした。その後、亡くなられた事を聞きました。相前後して、名古屋千種RCの旧友も亡くなられたと聞いています。名古屋瑞穂RCの草創期の長老が亡くなられたのは痛恨の極みです。最後に、例会出席は緊張感があって楽しみにしていたとのことでした。

江口金満さん

岩本 成郎

江口金満さんは1922(大正11)年8月1日生まれで、邦楽・謡曲など日本を代表する楽曲が趣味でした。名古屋瑞穂RCへの入会は1980年3月13日、2016年10月19日に他界されて退会となりました。36年7ヶ月という長い月日をロータリーで奉仕の理念を持って尽くされました。

江口さんは若かりし頃、名古屋市立工業研究所の所長をされました。私は仕事柄そこへはよく通いました。その当時、江口さんは退任されていましたが、その後、私の小父が所長を務めていました。そんな関係もあり、江口さんは何かと当時の苦労話等をよくされていました。

思い出は尽きませんが、私が会長を務めていた2007-2008年度のある日、江口さんが病に倒れて休会が続いたことがありました。私と当時の幹事であった西本哲さんとの2人でお見舞いにご自宅へ伺いました。奥様が、「うちの主人は、大人の幼稚園であるロータリーの例会に参加する事を楽しみにしています。」



と何度もお話しされていました。「大人の幼稚園」の表現が未だに忘れられません。

ここ数年、私が特に気にかけていたのは、例会でのお食事です。私の横のテーブルで、ご高齢にも関わらず、皆さんと同じ食事をゆっくりと奥歯で噛むように召し上がっていました。ある日、いつもの食事中に喉を詰まらせて

苦しんでいる様子で、急に咳き込まれた事がありました。私が立ち上がった時、すかさず医師の田中英雄先生が駆け付け、背中を撫でながら声をかけ、事なきを得ました。田中先生は、やはり気にかけていたようで、離れたテーブルから、様子を見ていたことと思います。また、例会ではいつも隣のテーブルで、数多くの生業を勉強させて頂きました。そして、車椅子に乗っての例会出席が最後になりました。

江口さんがある時、ロータリーとは何か、その目的について、「ロータリーの目的は意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励する事にある」とお話しされた事がありました。定説で

1. 知り合いを広める事によって奉仕の機会とすること
2. 職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事は全て価値あるものと認識し、奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものにする
3. ロータリアン一人一人が個人として、また事業及び社会生活において日々奉仕の理念を実践すること
4. 奉仕の理念で結ばれた職業人が世界中のネットワークを通じて国際理解、親善を推進することとあります。

「人生は運命であるように人生は希望である。ただ運命に従って生きるだけなら希望はない。一人間にとって、生きる事は希望を持っているこ



となのであり、希望は運命に逆らって生まれる。希望は欲望とも目的とも気持ちとも違うもので人生が全体として本来希望なのである。だからこそ希望に生きる人は常に若いのだ。また、自分の行いを正しく家庭を守り平和におさめてこそ会社経営ができる。」

江口さんもこの様な信念をお持ちだったと思います。

また、福澤諭吉の教え心訓では

- 1.世の中で一番楽しく立派な仕事は仕事を貫く事
- 2.世の中で一番みじめな事は教養のない事
- 3.世の中で一番寂しい事はする仕事のない事

ということが言われております。これはお互いに仕事を持って励んでいる皆様にも当てはまる事と思います。江口さんは名古屋市立工業研究所の所長の経験があり、ものづくりに携わっていた関係からか、この様なお話しと仕事のことをよく口にしていました。生活リズム及び行動計画は、行動をとる、計画を立てる、正しいかどうかチェックして実行することで、モチベーションが上がり、イノベーションによって事業の拡大がされるなど、進歩があって奉仕となります。走るから道になる、歩かなければ草が生えるということでした。

光陰矢の如し(光は日、陰は月の意で、再び光に戻る事が出来ない時の流れ)過ぎてみれば早いものです。江口さんは、例会では何かと朗らかに語り合える存在で、また、大きな存在でした。

平成4年叙勲を祝う会 江口さん挨拶文

皆様には、雞発声して平成5年を希望のうちに迎えられ、誠に
ご同慶にたえません。

私は昨年8月1日に古希の誕生日を迎え、11月3日付けにて
勲四等瑞宝章を拝受致しました。18年前の紫綬褒章拝受の折
と同様、科学技術庁ご推挙により、重ねて受章の栄に浴すること
ができ感激の極みであります。これは偏に恩師・先輩・同輩・業
界の方々のご指導・ご鞭撻のお蔭と心から感謝しております。と
くに今回の叙勲にあたっては「発明功労」による賞賜として僅か
3名のみ上げられた中に加えられ、無上の光栄に存じます。

今後も体力・健康のつづく限り社会奉仕・職業奉仕に盡力致
す所存でありますので、皆様にはよろしくお引きまわしの程お
願い申し上げます。



平成4年11月3日 祝う会 勲四等瑞宝章 ロータリーの皆様

